



# 行事予定

| 月 日    | 曜 | 会議・関係行事           | 時間及び場所                           |
|--------|---|-------------------|----------------------------------|
| 10月2日  | 木 | 日食協後援「世界のバインまつり」  | 松江市 やよいデパート                      |
| 10月7日  | 火 |                   |                                  |
| 10月6日  | 月 | 日食協上期会計監査         | 11:00 日食協                        |
| 10月8日  | 水 | 長野県問屋連盟との統一伝票説明会  | 14:00 松本市高砂殿                     |
| 10月9日  | 木 | 第11回関東支部物流対策委員会   | 15:00 日食協                        |
| "      | " | 震災時の食料品確保体制の整備説明会 | 10:30 "                          |
| 10月15日 | 水 | 総務部会              | 13:30 "                          |
| 10月17日 | 金 | 日食協協賛 バイン開拓研究会    | 13:00 サンケイ会館                     |
| 10月22日 | 水 | 全国缶詰大会(日缶協主催)     | 13:30 パレスホテル                     |
| 10月23日 | 木 | 理事会               | 12:00~13:20 東京ステーションホテル<br>2階藤の間 |
| "      | " | 講演会               | 13:30~14:50 " 牡丹の間               |
| "      | " | メーカー懇談会、懇親会       | 15:00~18:30 " "                  |
| 10月24日 | 金 | 問屋統一伝票委員会         | 14:00 未定                         |

## 講演会、懇談会の開催決まる 日食協活動をより充実化

9月16日、ルビーホールにおいて正副会長会議を開催し、本部委員会、CBO活動状況ならびに支部活動の報告を行なったあと、運営委員会で検討してきた講演会の実施および商品、運営の両委員会で具体化した賛助会員との懇談会、懇親会の開催につき企画主旨を2委員長より説明、正式開催が決定された。

### 経営研修講演会

まず講演会の開催については日食協の経営研修会とすることを目的に「食品流通業の行方を探る」をテーマに、流通研究の権威者であられる財団法人流通経済研究所々長の田島義博先生を講師にお迎えし、10月23日東京ステーションホテルにおける理事会に続き、午後1時半から2時50分まで特に小売業界の今後の動向に視点を合わせてのご講演をいただくことになった。

### 賛助会員との懇談会

またメーカー懇談会についてはこの講演のあと午後3時から日食協賛助会員107社にお呼びかけしご出席を願い、日食協の最近における本部活動状況に合せ、特に支部活動の報告と意見交換等が行なわれる。

なお当日の参考資料として商品委員会の作成による「加工食品卸売業の物流コストの実態について」が配布される。午後5時終了予定で、引き続き

いて立食会が開催される運びである。

## 総務部会

### 理事会で今後の活動を検討

日食協活動もすでに上半期を終了し、いよいよ下期を迎えることになったが、この下期における日食協活動こそ極めて重要な時点に立つとされ、講演会、懇談会の当日、正午から理事会を開催する。

特に最近、支部活動が積極的に展開されており、支部運営等についての協議が行なわれることとなろう。主な議題としては①委員会等活動に関する経過報告、②支部活動の状況報告（出席支部長より報告）、③収支状況報告となっており、その他議案の報告事項として講演会、メーカー懇談会、懇親会について説明、打合せがなされる。

## 運営委員会

8月20日の運営委員会において商品委員長よりメーカー賛助会員との懇談会を開催致したいとの提言があり、意見交換を行なったが、本件についてはさらに具体的検討を進めることになった。

また9月16日の正副会長会議、10月23日予定の理事会についての打合せ、経済企画庁物価対策室との懇談の件および優良企業表彰に関する説明等が行なわれた。続いて9月9日商品委員会のあと、①正副会長会議開催に当たりの事前協議、②理事会提出議案と日食協活動報告に関する内容検討、③賛助会員との懇談会を開催するに当たり、そのご出席者についての検討および懇親会の運営手順などを協議した。

8月21日総務部会を開催。経費節減に関し今回は主として什器備品についての取りまとめを行なった。

なお、いよいよ「消耗品」に関し、会報第15号から順次シリーズ的に掲載することになった。

総務部会の今後新たにとりあげるべきテーマとしては「水道、光熱費」とされ、次回からその検討に入ることになった。

## 商品委員会

9月9日、商品委員会を開催した。

主議題は来る10月23日開催予定となったメーカー賛助会員との懇談会の具体的進め方について検討。懇談内容としてはまず日食協の最近における活動状況の報告につづき、①物流コスト問題、②取引条件、③返品の現状等、現在それぞれ各支部において活動してきた状況を代表支部長より報告願うことなどが協議された。

この懇談会の準備運営に関しては運営委員会の検討を経たうえ、9月16日の正副会長会議において決定となる。

なお参考資料として各支部の協力を得てこのほど物流コストの実態調査結果がまとめられたが、これを事務局において提出資料用に編集し懇談を進めるなどの話合いがなされた。なおこの日、商品委員会に先だち、農水省食品流通局商業課宇賀神治夫氏、小松兼一、久光敏一両課長補佐が来局、商品委員長、運営委員長との卸業界に対する今後の農行政問題につき積極的なレクチュアがなされた。

# 支部ニュース

## 共同配送等積極的に研究 関東支部物対委

8月22日、関東支部物流対策委員会を開催。最近の物流動向は多品種、小口包装の傾向が顕著となっており、その問題点を探ることとなり、手はじめとして缶詰荷姿の小口包装化ならびに物対委としての今後の活動について協議した。

缶詰荷姿の小口包装化については、おおむね1打が得意先の購入する中心単位となっており、梱包単位は1打中心の包装を先ず関係業界へ働きかけたいとの意見があった。

缶詰以外については難かしい点が多く、取敢えず缶詰包装の小口化を缶型別、品種別に分析、支部幹事会、さらにCBO、商品委員会、運営委員会等の議を経て缶詰関係団体へ申入れる運びである。

物対委の今後の活動については物対委員長から「共同配送が実現すれば物対委の大きな仕事といえよう。また統一伝票の普及に関して、伝票の共同印刷化が実施できればこれまた大きなメリットがあろう」との見解が述べられ、本件について次回物対委でさらに検討を行なうこととなった。

## 共同配送小委員会

8月29日関東支部共同配送小委員会を開催し、百貨店向け共同配送に関する専門家との意見交換を行なった。

まず、辰巳倉庫から「百貨店向け共同納入システムプラン」をもとに説明があり、引き続き意見交換を行ない、次のような方針を決めた。

(1) 納入マニュアル作成：いわゆる「納入要領」を取引関係にある各社で分担し納入デパート別に作成に取りかかる。

(2) 倉庫見学：9月19日、事務局へ参集し辰巳倉庫・榑越中島倉庫見学。

(3) 倉庫会社にあつては9月上旬中に委員会社のデポを見学する。

配送小委員長見解；「倉庫見学のあと今後どう進めるべきか、また小委員会として日食協上部へどのようにレポートすべきかをご検討いただきたい。

上部へ報告したあと、百貨店協会への働きかけ等最終的煮詰めに入ることになる。」

## 問屋主催の特売自粛

### 九州沖縄支部で呼びかけ

九州沖縄支部ではこのほど支部活動の一環として、問屋主催の特売を対象とする行事の自粛を呼びかけたいとして次のものを挙げている。

- 1) 招待旅行や各種会合における特売を対象とするもの
- 2) 金銭や物品等の景品の特売の対象とするもの
- 3) 値引きや商品添付等の条件の特売の対象とするもの

## 返品防止活動にも意欲

以上のほか九州沖縄支部では前年に引続いて不当返品防止活動を積極的に進めており、10月上旬に第2回目のチラシ配布を予定し、現在各社に必要部数を問合せ中である。

### 《返品不能商品リスト》

◎仕入・販売に要注意品（下記商品は絶対に返品

できません。)

- 冷凍・チルド食品 (マイナス・低温保管日配食品)
- 塩干・乾物 (農水産乾燥・半乾燥自然食品)
- 糖粉雑穀 (砂糖・小麦粉・豆類)
- 乳製品 (バター・チーズ・マーガリン類)
- 練製品 (畜肉・魚肉ハム・ソーセージ・カマボコ類)
- 手延素麺並びに生麺・半生麺
- 輸入食品 (海外原産地パック品)
- メーカー指定商品

◎保管管理に要注意品 (下記の場合はお引取り致しかねます。)

- 棚ざらしにより、日付けの古くなった商品
- 鼠虫害や不注意により汚破損した品
- 温度・湿度・日照等の管理不備による変質品
- シール或いはマジックによる価格表示品
- 特売・大陳催し等による売れ残り品
- 使用が限定される特別注文品

◎取扱いの注意事項 (下記の事項は返品防止のキメ手です)

- 食品は生き物ですから、ドライでも常に鮮度管理を励行する。
- 賞味、保存期限がありますから、必ず先き入れ先き出しを厳守する。
- 人間以外の動物も好みますから、特に衛生管理に注意する。
- 単品管理により、回転率を把握して棚ざらしを防ぐ。
- シーズン品、進物品は周到的な予測と計画仕入を実行する。
- 注文して仕入れた以上、絶対に完売の意識に徹する。

- 万一返品の際は必ず事前に仕入れ先き担当セールズと打ち合わせする。

## 農水省と冷夏の影響で懇談

8月25日、農水省食品流通局商業課の要請により、冷夏の影響に関する懇談会を開催した。

出席は農水省から白石商業課長補佐、小西企画課長補佐、池田企画課長補佐の3氏と日食協側は商品委員会メンバー、会社の営業、仕入関係の実務担当の6名。

なお懇談に当っては下記分類により54年7月実績に対する55年7月実績の対比でどのような状況になっているかにつき各氏から説明がなされた。

食品の場合は7月単月だけのデータではとらえ難く、4月～7月を通じてとらえた方が適切な把握ができるとの一致した意見であったが、一応7月単月における対比によって意見交換した。

ここに3社の数字を参考までに掲載したい。

| 品 種      | A 社     | B 社     | C 社    |
|----------|---------|---------|--------|
| 濃 縮 果 汁  | 78 %    | 87.5 %  | —      |
| 100 % 果汁 | 78.2 %  | 89.0 %  | 67 %   |
| ソフトドリンク  | 97.2 %  | 82.9 %  | 81 %   |
| サイダー     | 38.4 %  | 80.9 %  | 70 %   |
| みかん缶     | 141.9 % | —       | 105 %  |
| パイン缶     | 92.3 %  | 59 %    | 67 %   |
| コンビーフ缶   | 32.3 %  | 27 %    | 64 %   |
| 即席冷麺     | 70.6 %  | —       | } 95 % |
| ひやむぎ     | 60 %    | —       |        |
| そめん      | 59.8 %  | —       |        |
| マヨネーズ    | 106.8 % | 128 %   | 110 %  |
| ドレッシング   | 126 %   | 116.7 % | 112 %  |
| ウスターソース  | 107.8 % | 142.3 % | 158 %  |
| とんかつソース  | 106.8 % | 131 %   | 150 %  |

冷夏の影響による需要の落ち込みはたしかに大

とはなっているが、この減退は冷夏のみが原因であったとは言い難く、消費者ニーズの変化、物価の上昇、その他の要因も見のがせないとの意見もあった。



## 缶詰ブランドオーナー会

### 果実部会

9月3日、果実部会を開催し①新物もも缶詰の情報交換②クリ缶びん詰の情報交換③みかん缶詰の現況並びに新物への対応についての情報交換④その他を協議した。

新物もも缶詰について、例年であると7月、8月の新物前には一部品切れとなるが、ことしはその切れ目がなく販売しなくてはならなかった。

生産数量は昨年生産297万3千函のうち東北219万3千函。この数字をことしどの程度にみるか。他の地区はあまり積極的でなく昨年の50%が最高であろうと見られ、仮りに東北を90%とすると250万～260万函の生産となる。

一方、黄桃の状況は原料入荷順調と伝えられたが、ここにきて、玉伸びの悪いもの10%、熟果10%を含め20%は確実に減産である。

黄桃缶の生産は毎年40万函台と安定しているが、ことしはその20～25%は減産と思われる。

クリ缶、びん詰は1級品の消化が進み、スソ物が残されている。

在庫は昨年の半数程度の12万～13万函見当(18ℓ換算、昨年27万函)。

韓国からの輸入は昨年4,000トンに対しことしは6～8月で相当量が輸入され6,000トン程

度と見られる。

価格は10～15%アップ。これが製品にはねかえると高値増産が懸念される。

みかん缶詰の消化状態について、4号缶の手持はほとんどなく、5号缶は荷もたれ気味。消化したとは言え問屋の犠牲において消化したとの声があり、消化したのではなく消化させたという点が強調された。

ツブツブみかんについては1,500万函は突破し、当初計画をかなり上回ったとの状況説明があった。

## 日本蜜柑缶工組との懇談会

9月3日ルビーホールにおいて蜜柑缶工組幹部と日食協CBO果実部会代表との懇談会を開催。

新物みかん缶詰に関する意見交換を行なった。

輸出、内販ともに環境は厳しく、作柄は農水省発表の8月1日現在、29,807,000トンと減産となっている。

ことしは果汁関係の在庫も多く、日照不足により青果には不向きとの見方もあり、原料購入は慎重に対処したいとされた。

今後もパッカー、ブランドオーナーとの懇談の機会をできるだけ多くもち、55年度みかん缶詰の生産に臨みたいとの声であった。

## 「世界のピンまつり」

恒例の「世界のピンまつり」は日本パインアップル輸入協会、沖縄パインアップル缶詰協会、両協会の主催。

日本加工食品卸協会後援で下記により開催する。

目的 この行事に賛同するデパートを会場に世界の主要パイン缶を一堂に集め真に果実缶詰の王者としての風味を直接消費者に紹介し、併せて豊かな食生活の伴侶として需要の喚起を図る。

会期 昭和55年10月2日(木)～7日(火) 6日間

会場 松江市やよいデパート5階

## パインアップル缶詰開缶研究会

恒例のパインアップル缶詰開缶研究会は下記により開催される。

### 1. 目的

パインアップル缶詰の品質の向上と規格の維持をはかるため、市販されている諸地域産品を買上げて一堂に集め、開缶審査のうえ、ユーザー各位の参考に供する。

### 2. 主催

日本パインアップル輸入協会  
沖縄パインアップル缶詰協会

### 後援

沖縄県

財団法人 日本缶詰検査協会

### 協賛

日本加工食品卸協会  
沖縄県パインアップル缶詰工業組合

### 3. 期日

昭和55年10月17日(金) 午前10時～  
正午審査

午後1時～3時半公開

### 4. 場所

サンケイ会館 602号室

### 5. 出品点数

50点前後

## なめこ缶詰開缶見方会

9月18日、なめこ缶詰開缶見方会を、主催、日本加工食品卸協会、全国食品缶詰公正取引協議会、(社)日本缶詰協会、(財)日本缶詰検査協会、日本農産缶詰工業組合協力により開催した。出席約60名。

今回は特に消費者団体を招き消費科学連合会から戸田つる女史、伊藤康江女史、栄養改善普及会の喜代田多美子女史、歌原三枝子女史が出席、懇談した。

開缶見方会は市販品等なめこ缶57缶で午前中、日本缶詰検査協会の榎本検査部長、他2名の検査員により、計量、品質検査、午後から一般公開、2時から講評ならびに質疑応答が行なわれた。

はじめに日食協CBOを代表し、水島品質対策委員長から今回で4回目を迎えたなめこ缶詰開缶見方会開催主旨等につき挨拶があり、次いで缶検、榎本部長の検査結果の講評、日缶協渡辺部長よりの公正競争規約、JAS規格から見た表示上の問題等の説明があった。

なお消費者代表から「なめこは消費者に愛好されている商品の一つだが、缶詰のなめこはあまり使われていない。

もっと宣伝してはどうか。最近スーパーで小さな缶詰ばかり売られている。

せめて6号缶位のを置くようにしていただきたい」との希望があった。

審査の結果は次の通りである。

○品位判定

| 平均点  | 55年度 9/18日 |       | 54年度 9/7日 |       | 52年度10/13日 |       | 51年度 9/14日 |       |
|------|------------|-------|-----------|-------|------------|-------|------------|-------|
|      | かん数        |       | かん数       |       | かん数        |       | かん数        |       |
| 4.75 |            |       | 1         | 1.8%  |            |       |            |       |
| 4.5  |            |       | 3         | 5.6%  |            |       | 1          | 2.3%  |
| 4.25 |            |       | 8         | 14.8% |            |       | 4          | 9.3%  |
| 4.0  | 8          | 14.0% | 17        | 31.4% | 3          | 7.2%  | 4          | 9.3%  |
| 3.75 | 9          | 15.8% | 12        | 22.2% | 9          | 21.4% | 7          | 16.3% |
| 3.5  | 18         | 31.6% | 5         | 9.3%  | 10         | 23.8% | 6          | 14.0% |
| 3.25 | 6          | 10.5% | 5         | 9.3%  | 12         | 28.6% | 6          | 14.0% |
| 3.0  | 9          | 15.8% |           |       | 3          | 7.1%  | 5          | 11.6% |
| 不合格  | 7          | 12.3% | 3         | 5.6%  | 5          | 11.9% | 10         | 23.2% |
| 計    | 57         |       | 54        |       | 42         |       | 43         |       |

○総合判定

| 年度 | 開かん数 | 品位            |              | 量目(計器)        |              | 表示            |             | 総合            |               |
|----|------|---------------|--------------|---------------|--------------|---------------|-------------|---------------|---------------|
|    |      | 合             | 不            | 合             | 不(固形)        | 合             | 不           | 合             | 不             |
| 55 | 57かん | 50<br>(87.7%) | 7<br>(12.3%) | 56<br>(98.3%) | 1<br>(1.7%)  |               |             |               |               |
| 54 | 54   | 51<br>(94.4%) | 3<br>(5.6%)  | 48<br>(88.9%) | 6<br>(1.1%)  | 53<br>(98.1%) | 1<br>(1.9%) | 44<br>(81.5%) | 10<br>(18.5%) |
| 52 | 42   | 37<br>(88.1%) | 5<br>(11.9%) | 33<br>(78.6%) | 9<br>(21.4%) | 41<br>(97.6%) | 1<br>(2.4%) | 29<br>(69.0%) | 13<br>(31.0%) |

※ 今回のサンプルはいずれも54年産の市販缶詰である。

[今回の不合格品内訳]

つぼみ 4缶 (極少、粒揃、形態)  
 ひらき 1缶 (くずれ)  
 ブロックン 2缶 (くずれ)

なお、なめこ缶詰のJAS受検数は、52年 32,000函、53年 46,000函、54年 8,500函で生産その他の事情により減少した。

日缶協三島常務理事；「本日はなめこ缶開缶見方会に消費者の方、はじめ業界の方の出席をいただき感謝している。今回のJASに準じての検査結果は示された通りで安心して見られる。なめこ缶はとかく爽雑物が混入するが、そうしたものがなくこの点、高く評価していただいてよいと思う。表示の問題で前回ももの開缶見方会の時にも消費者からご指摘があったサイズ表示について、缶詰はほとんどが印刷缶で共通の缶に詰めるため、言うは易く行ない難い面があるが、今後とも適切な表示方法を考えて参りたい。」



## アスパラガス徳用品表示を検討

9月26日、CBO品質対策委員会を開催。日本農産缶詰工業組合とアスパラガス徳用品の表示規制(案)につき協議した。工組案の概要は次の通り。

### 1. 一括表示例

品名 アスパラガス(色混合)  
 形態 スピアー<sup>(1)</sup>又はチップ<sup>(1)</sup>又は2つ割<sup>(2)</sup>  
 基部の太さ かんマーク上段末尾に略号で記載<sup>(3)</sup>  
 (Lは大、Mは中、Sは小)

- (註) (1) 「2つ割」の入っていないもの  
 (2) 「スピアー」又は「チップ」の入っていないもの  
 (3) 「2つ割」にあっては「基部の太さ」を省略すること

### 2. 徳用品について

- (1) 「徳用品」の文字は一括表示欄外の品名に併記し、活字の大きさは21P以上とする。  
 (2) 文字の色は背景の色と対照的な色とするこ

と。

3. 説明文は読み易い活字の大きさと、要旨次のような説明内容とすること。

本品は、形と色が不揃いで多少さびやきずのついた原料を詰めたもの。

4. 2つ割の缶マークはASWHとすること。

### 5. 図柄

通常品と区別できる図柄とすること。

### マッシュルーム缶の内容総量を申告せ

マッシュルーム缶詰の内容総量については次の数値で行なうことに関係団体で同意を得、表示を行なうことになった。

| 缶型   | 内容総量   | 固型量    |
|------|--------|--------|
| 1号   | 2,850g | 1,930g |
| 2号   | 800    | 510    |
| 3号   | 520    | 290    |
| 4号   | 380    | 225    |
| 7号   | 290    | 155    |
| 果実7号 | 215    | 120    |
| 8号   | 130    | 75     |
| 小型2号 | 85     | 50     |

# 80年代食品産業の展望と政策展開

## 農林水産省食品流通局局長 森実孝郎氏ご講演要旨

社団法人食料品流通改善協会では9月19日竹橋会館において食料品流通業界首脳部のための特別セミナーを開催したが、その中で「'80年代の食品産業の展望と政策展開」と題して農林水産省食品流通局長森実孝郎氏の講演があった。以下にその講演の要旨を掲載する。

### 1 食品産業政策の本格的な検討を行う狙い

'80年代のこれから起る問題はなにか。その対応について農政審議会の場において作業を進めてきた。

現在、食品100%のうち45~50%は加工食品である。

さらに19~20%は外食産業が占めており、食品の $\frac{2}{3}$ が一般の加工食品と外食という比率である。広義における生鮮食品は $\frac{1}{3}$ 程度

のウェイトとなってしまう。

これはすでに昭和50年においてこのような比率となっており、その点、日本はアメリカに近い数字を示している。

農林水産行政も消費者ニーズに対応し業種、産業別の状態を確実に認識していかなければいけない状況にある。

加工、流通、外食を担っている人員は640万人で全体の雇用の11%でむしろ農業従事者より大きな数字を占めている。

このような実情から今後は加工、流通、外食の業種、産業別をトータルした産業として進行するであろうと思われる。ここがわれわれの考え方としての原点である。

消費者ニーズへの企業の対応も食品メーカーは単品ではなく、大手メーカーはすべて2次加工等、食品全般にわたり消費者ニーズに向け広い範囲で対応しており、流通、関連機能を含めたものと一体的に取り組むとともに、そこに私どもは食品産業をとらえている。

## 2 80年代の食生活の展望

最近においての食品産業界はドライ・ハード型からウェット・ソフト型へ、また少品種・大量型から多品種・少量型へ移行しつつある。

こうしたことから80年代の食生活をどうとらえるかが基本的な出発点となる。

みなさん専門家でありここで申しあげるまでもないが、食品は安全の保証と栄養価の2つが重要である。

まず80年代の食生活の展望としては次の点が考えられよう。

所得は今後大きく伸びるようなことはない

であろう。若干微増か若干低下で大きく変わることはなかろう。次ぎに組織化、構造の問題であるが、大都市人口は静止の状態ではほとんど変動がないと見られる。一方中小都市人口が増えるという傾向にあり、これは非常に重要な問題となってきている。

そういう都市化の進展と中小都市の人口増加による食生活の進展が考えられる。さらに核家族化する。

これは10数年前から言われてきたことで、いままで新婚家庭が主体であったものが、今日では第1線をリタイヤした60才の老令の核家族が増えている。

また独身生活者もオールドミス等の独身者ばかりではなく過渡期的な独身者、離婚等により独身生活をしている食生活者もいる。

これらのことを考え合わせるとやはり少量、多品種、加工度の高いものとなる。食事も1日3回と決った時間、固定した食生活ではなくなっている。

人によっては2食主義というものもある。間食と食事の区別がなくなり、いつでも食欲を満足させるという姿がでてきている。

以上のようなことなどを中心にいろいろと議論を行ってきた。

消費動向も最近はいろいろなものを少しずつ買うようになり、そうした傾向へのサービスが進み、流通も多品種、少量型となりコンシューマーパックが小口化してきた。

しかも非常に加工度の高いものが要求されている。

惣菜にあっては、あと少して3兆円の産業となる。

缶詰、フローズン、チルド商品をはじめ通常のパック流通のもの、外食、惣菜とのかねあいも今後大いに生じてくる。

ドライ・ハードのものからウェット・ソフトのものへと変化が見られる。

これは物理学的なことではなく感覚的な表現であるが、乾いたものより水分の多いもの、硬いものより軟いものが増え、この傾向は定着してきたと思う。

### 3 80年代は競合と協調の時代

80年代は競合の激化と、その反面には協調の時代であるといえよう。

スーパーは決定的な力を持ち、加工食品の4割を売っている。

従来、PBは委託生産でやってきたが、今日ではNBの価格決定まで介入するようになってきている。

一方、問屋機能は後退基調である。内食、外食が進み、惣菜の宅配業といったものも生れ、ここにきて問屋の機能そのものが大きく変質してきつつある。

昔は金融力、品揃え、ストック機能等を兼ね備えていた。

問屋の配送機能は10年間のうちに相当変化し外注主力となり、またNBメーカー系列化がなされてきている。

ビールでさえ複数ブランドを取扱い、お互いに互換し合っている。

他方チルド、フローズンは配送機能、配送ルートにより、機能分担が進み、いわゆる縦の垂直的な系列化から水平的な機能分担が生じてきている。このような点も今後大いに考

えていく必要がある。

### 4 競争と秩序のポリシーミックスと原料問題の現実的解決

食品産業の世界は民間企業の自由な競争が望まれる。行政の介入はできるだけ排除し、民間の活力を生かすことが本旨である。

しかし、果してそれだけで済むことかどうか、まさに議論の余地があるところである。

80年代は不安定な時代であり、加工原材料の輸入カルテルをどう考えるか。

これからの日本は加工原材料の輸入がなければ食生活の安定は解決できない。

輸入をどうするかが一つの大きな問題であり、あと一つは新しい流通秩序の問題がある。

### 5 食品流通の課題

スーパーは急速に伸びてきた。無論、反省しなければならぬ点は多々ある。

流通形態も大きく変わり、複雑に大小企業が併存している。

当然、ガイドポストが大きな政策課題となる。

日本の食品産業は過当競争の中であって、しかもメーカー大手企業81社で2,480億円の利益をあげているが、これは前年の2割減位。

一方、トヨタ自動車1社で2,960億円の利益をあげており他業種とは大きな格差がある。

このように食品産業はコストの上昇分を転嫁できない状況にあり、これは過当競争による体質にもよるところである。

こうしたことについて業界自体も考えてい

ただきたいし、行政としても秩序の問題に取り組んで参りたい。

## 6 技術開発の課題

これからは技術開発が問題となろう。ますます取り扱いが多様化し、その結果は、売り上げは伸びるがスケールメリットにつながらない。

これが今日の食品産業の悩みとなっている。スケールメリットに絡がらないところから中小の比重が高くなっており、いかにして小回りをきかせ、ニーズの変化に対応させていくべきか。これからの課題として打ち出しているものに次の点を挙げたい。

- ① 食物蛋白、脂肪を新しい食品素材として開発を進める。
- ② ますます加工食品の度合いが高くなる。衛生、安全性の確保は勿論であるがサニタリーをどのようにしてオートメ化するか、そのためには開発したものをどうシステム化するか。
- ③ 中小企業者の技術はいかにして導入できるか。このことにつきいま食品産業センターを通じて、技術情報の提供、開発を進めている。
- ④ 原料問題は審議会の議論であったが、共通の課題を解決することが先決である。
- ⑤ 食品流通を考える場合、次の議論が前提となる。まず、多品種、少量購入で流通ウェイトが高まり、流通チャンネルの多元化が考えられる。また、広範流通圏の見直しと形成についての検討を進める必要がある。以上の点を実際的にシステム化していくべきであろう。

生鮮品についてはいまの市場制度はベストと思わないまでもベターだと思う。今後も現在の市場制度は大きくは変わらないであろう。

## 7 流通チャンネルも大きな変化

また最近業務用が増えてきているが、同時に加工食品でPB食品も増えるであろう。現在でも特に大手流通業者のブランドは増えつつある。

スーパー、水産、メーカー、流通、ホテル等それぞれブランドを持っている。

また、フローズン、チルド、低温、常温流通等々から流通チャンネルが変ってくる。

省エネルギーは青果物にとっても大きな問題であり、すでに省エネ化に対応し近郊産地のウエートが増し、従来のように大産地だけに頼るといふかたちではなくなってきている。

この傾向は加工食品業界でも目立ちはじめしてきた。NBの工場は大規模化しているが、むしろいま食品メーカーはフランチャイズ方式で製造する方向に変わりつつある。

運送コストが高くなり、交通混雑で1時間で何キロ走れるかという問題とか、それよりもっと大きな問題として二次加工で低温流通の商品は短時間で配送しなければならないが、そのためには当然フランチャイズということになる。

このようなことからなにか本職なのかかわからない企業もでてきた。外食企業でもあり流通業者でもあるといった形態もある。従来の産業分類では区別できない状況のものが多くなった。

さて、この機会に私どもが関心を持っていることをここで若干申し述べたい。

まず小売業の組織化と専門店化の2分化を重視し、特に後継者問題を考えたい。次に加工食品問屋の再編成である。これも放置できない問題の一つ。

全国をベースとした問屋、地域をベースとした問屋の統合、業務提供も進められるべきであろう。

地域の中小問屋がチェーン本部化し、もはや単独の問屋ではやっていけなくなっている。また物流の改善についてはトータルとしてとらえ、工場から消費者の手にわたるまでどうすれば物流コストが安くなるか。これらのことをシステムとして考える必要もある。

市場外流通、情報処理体制の整備も必要。これはコード統一、伝票の統一にも絡がる。申すまでもなく商流の合理化が進まなければ物流の合理化には絡がらない。

流通行政はできあがったものへの施策だけでなく、これから起る世の中の変化に常に柔軟に対応していく姿勢が必要である。

## 8 80年代の外食産業

外食産業は70年代の後半、最も伸びた産業といえる。今後の問題は味をおろそかにしたチェーンはうまくいかないと思われる。

そうした意味でこの問題にどう取り組むか、マニュアルづくりなども考えて参りたい。

アメリカでもますます外食産業の競争がみられ、これからは外食市場の調査が当面の課題である。いずれにしても消費者ニーズは常に変わっており、これをどうにかたちでとらえるか。

消費者の購入の選択は安いもの、高くともおいしいもの、ほどほどの値でまあまあのも

のがあり、消費者への商品に対する啓発が必要なことは申すまでもない。

すでに役所が消費者を教育することはおわりにきている。むしろこれからは企業が自主的に行なうべきであろう。

すでにメーカーにあっては料理教室、モニター等消費者を組織化しブランドのイメージアップを図っているものの、大都市生活者は魚をどうやって獲るのか、野菜はどのようにできるのかも知らないものが多く、田舎の生活者とのギャップがでてきている。

この点を行政が適切に施策していかないと都市と田舎の生活者との板挟みとなり、食品産業が苦しむことになりかねない。また企業にあっては消費者の変化、多様化を受けとめることが大切である。

いずれにしてもこれからは情報、サービスがポイントとなろう。

5年前に私は総合的な農政を主張し、国の総合的農政が生産、輸入、備蓄、加工、流通、消費を含めた食品産業としてとらえ、生産と消費流通を両輪として考える方向となってきたことを何より結構なことだと考えているが、いま政策として以上のような視点に立って行政が進められていることをお伝えし終りたい。



## 第10回全国缶詰大会

社団法人日本缶詰協会では「第10回全国缶詰大会」を次により開催する。

### 1. 名称

第10回全国缶詰大会

2. 主催

社団法人日本缶詰協会

3. 後援

農林水産省

財団法人食品産業センター

4. 協賛

日本水産缶詰輸出水産業組合

日本鮪缶詰輸出水産業組合

日本蜜柑缶詰工業組合

日本農産缶詰工業組合

日本ジャム工業組合

日本食肉缶詰工業協同組合

日本製缶協会

日本加工食品卸協会

日本缶詰輸出組合

財団法人日本缶詰検査協会

5. 開催日時

昭和55年10月22日(水)

午後1時30分～午後6時30分

6. 会場

東京都千代田区丸の内1丁目1番1号

パレスホテル

7. 目的

缶詰業界を取り巻く諸問題に対し、業界挙げて英知を結集、これが解決を図り将来に向かって業界の飛躍を期するための決起大会とする。

8. 大会次第

1) 議題

問題喚起

討議

結議

2) 式典

功労者感謝状贈呈 事業功績者表彰

技術功績表彰 永年勤続者表彰

第19回農林水産祭参加第8回缶詰品評会

入賞製品表彰

農林水産大臣賞授与

農林水産省食品流通局長賞授与

日本缶詰協会会長賞授与

来賓挨拶

万歳三唱

3) シンポジウム

テーマ

「缶詰産業の活路開拓の方向を探る」

講師

静岡経済研究所

山崎 充

専修大学経営学部教授

中村秀一郎

株式会社西友ストアー副社長 上野光平

4) 懇親パーティー

案内先

日本缶詰協会会員・賛助会員全員

招待先

関係官庁、関係国会議員、学識経験者、  
関連関係団体、消費者団体、マスコミ関係、  
業界紙関係等



※株式会社やま磯では9月次の役員を選任した。

代表取締役社長

磯部 武治

代表取締役専務

大上 文治

取締役・金沢営業所長

唐崎 薫(新任)

取締役・広島第二工場長

中村 進(新任)

# 食品卸事務費節減のポイント

## 《すぐに役立つ事例紹介》

卸売業において売上収益の増大を図る活動を表舞台とすれば事務合理化、経費節減への努力は舞台裏の活動であるということができよう。そして近時、エネルギー資源の高騰とそれに伴う社会情勢、経済環境の変化は卸売業界に厳しい対応を迫っている。

高成長時代にはあまり省みられなかった事務経費の節減は企業経営の上で手拔きのできない新しい課題の一つとなりつゝある。往時、卸売業にとって節約、節減は商いの道においての常識でもあったが、80年代に入って改めてこの問題が見直されようとしている。

運営委員会では委員会内に総務部会を設けこの事務経費の節減を図るための具体的事例を持ち寄り、これらをさらに実用化し、応用ができるよう分析、整理作業を続けてきた。

その結果ようやく総務部会としての活動成果を会報を通じ発表できる段階を迎えたので、本号から消耗品関係を皮切りに什器備品、複写・印刷等々につき項目別に経費節減の事例を逐次ご紹介して参りたい。

この特集企画が会員の皆様に参考として少しでもお役に立てば幸いである。

### その1

## 消耗品

高度成長期においては、「消費は美德」という考え方が支配的になっておりましたが、第一次オイルショックを契機として、低成長時代を迎えるとともに「有限の資源を大切にする」という方向に、頭の切り換えを求められるようになって参りました。

また、企業のコストダウンの面からも消耗品の節約もなおざりにできなくなってきました。

ここに紹介する2社は、いずれも都心

部に立地する会社ですが、それぞれの理念をもって社員を教育し、以下のようなシステムで日常の消耗品管理を行っています。

一括発注と個別発注などの点では対照的な面をもっていますが、それぞれの会社の制度やオフィスの状況などに合せて作られていて、かなりの成果をあげております。

また、それぞれの会社が全く別個にスタートしながら一致点も見られることは

注目されます。

### **A社の事例**

○従業員数 250名

○ビルの5フロアで執務

消耗品は総務課の在庫を申請に応じて支給する。但し各課においても多少の手持をし、ある程度まとめて総務課に申請する。

#### **【全社スローガン】**

『小さな努力が大きな成果』

#### **【用度品購買システム】**

(各課からの申請)

各課からの申請はすべて「用度品請求伝票」(表-1)に単価、合計金額(註)までを記入、申請者所属長の印を押印のうえ総務課へ持参する。

(註)金額の記入により、原価意識を持たせるようにする。

(空容器引換え)

消耗した残りや空容器などを持参させ交換する。(ボールペン、鉛筆、糊のケース)

(文具店への発注)

総務課はノートに品名、数量、価格を記録し電話で発注する。納入予定日を記録する。

(納品)

文具店から納入の際に発注ノートと照合し入荷のチェックを行なう。

(納入業者)

常備品は1社に限定している。

印刷用紙、包装紙など数量のまとまる場合は2社以上で見積り合せをする。

(保管)

総務課担当者が課内のスチールキャビネットに収用保管する。就業時間外は施錠する。

在庫は極力少なくしておく。特殊なものは在庫しないということで習慣づける。

(棚卸)

3月、9月の末日に棚卸を行ない各課から総務課長に報告する。(一般へのPR効果をねらったもの)

(規格統一)

会社として用度品の規格を統一し在庫圧縮に役立てる。(参考表-2)

(まとめ)

総務課による集中管理型で、発注量を少なくして在庫圧縮に役立てている。

消耗予算は各課ごとに計上管理している。

### **B社の事例**

○従業員数 480名

○課数 30

○事務所は二つのビルの8フロアに分散している。

損益予算制度が各課ごとに行われており、消耗品予算等も各課で管理する。

48年度に節減キャンペーンを行ったが、この年は前年比で大きく節減を果し、以後は前年程度に落ち着いている。

#### **【基本的な考え方】**

『使える物を捨てない』

『事務用品は個人の所有物でなく、会社からの預り物である。』

#### **【消耗品支給システム】**



(事務用品携帯基準)

個人用 別表-4 グループ用 別表-5  
(総務課への申請)

各課は毎月1回、所定の「事務用品一括購入申請書」に数量を記入、総務課へ提出する。(表-3)

(文具店への発注)

各課から提出された申請書を発注書として、そのまま文具店へ渡す。

(文具店からの納品)

文具店は課別に品揃えをし総務課へ納品する。総務課はこれを申請書とチェックのうえ、各課へ引渡す。申請書は総務課が保管する。

(保管)

各課の担当者はその課のロッカーにこれらの品を保管する。

(棚卸)

毎月1回棚卸をし、一括申請の資料とする。

(各課における支給)

消耗品が必要になると各自、所属部課の担当者から支給をうける。

(空容器などの引換え)

使用済みの容器等は持参して交換する。

ボールペンは替芯、鉛筆、消しゴムは小さくなったもの、便箋等は表紙といった要領である。

(臨時の申請)

常備品を各課で品切れした時と非常備品を必要とする時は、個別の申請書に理由を明記して庶務係長に提出する。

庶務係長は理由を審査し相応の理由あ

りと判断すると、総務課の在庫品を支給するか文具店より購入のうえ支給する。

(退蔵品対策)

抽出の中に退蔵されがちな消耗品を発掘するため、毎月1回整理整頓日を設けて整理させる。各係は自課の必要在庫を大幅に上廻った退蔵品が生ずれば、総務課へ提出する。

(文具店からの請求)

課別に請求書を提出させ、各課別の予算統制が行なえるようにする。

(まとめ)

課別の予算制度と合せて各課に分散して管理を行わせ、併せて総務部門の合理化に役立たせている。

《総括》

消耗品というものは細かいことだからと放っておいてもいけないが、さりとてあまり性急な節約のやり方はとかく重箱の隅をつつくようなことになりがちで、従業員の反発を招いたり甚だしいときはムードを暗くし、志気の沮喪を招くことにもなりかねない。

総務の担当者としては、事務機用度品について広く正しい知識をもたなければならない。その知識のうえに立って相手の業務上の必要性を十分に理解し、その課がなぜ他の課と異なる物品の支給を需めるのかということまで配慮をすることによって、各課の側にも「そこまで総務が理解をしてくれるならば我々も総務に協力しよう」というムードも生みだされることが肝要である。

消耗品の節約の鍵は「節約運動をしよう」式のポスターや回覧ではなく、総務課員の卒先垂範と相互理解にあるといえよう。

なお事務用品に関する基本的認識として次の3点を十分ご理解のうえ、これらの効果的使用方法を各自もう一度考え直してください。

1. 事務用品は個人の所有物ではなく会社からの預り物である。
2. 最小限の事務用品使用で効果的事務処理をする。
3. 共同で使用する物は各自がムダなく大切に使用する。  
(別表の価格はいずれも社内標準価格)

表-1 (B6)

| 用度品請求伝票  |         |                    | 教 者        | 所 属 長 | 請 求 担 当 |
|--|---------|--------------------|------------|-------|---------|
| 昭和55年7月21日   |         |                    | 支 社<br>庶務課 |       |         |
| 品 名  | 金 額     | 記 事                |            |       |         |
| インデックス(大) 1箱   | ¥ 80.-  | [用度品の愛護節約につとめましょう] |            |       |         |
| 集計用紙(シヨ-10) 1冊   | ¥ 190.- |                    |            |       |         |
| BNKファイル(№33) 1冊  | ¥ 160.- |                    |            |       |         |
| 合 計  | ¥ 430.- |                    |            |       |         |
| 注意 1. 各課の係にて取りまとめて請求して下さい。<br>2. 必ず上長の承認印を受けて下さい。<br>3. 必要な場合は摘要に用途仕様を記入して下さい。 |         |                    |            |       |         |

表-2 (B6)

| 品 名               | 規 格 | 品 名              | 規 格 | 品 名           | 規 格   | 品 名          | 規 格 |
|-------------------|-----|------------------|-----|---------------|-------|--------------|-----|
| ノ ー ト             | A5  | レターファイル<br>(BNK) | №32 | インデックス        | 大     | 封筒<br>(社名入り) | 角1  |
| "(大学ノート)          | B4  | "                | №33 | "             | 中     | "            | 角2  |
|                   |     |                  |     | "             | 小     | "            | 角3  |
| レターファイル<br>(ライオン) | B6  | カードケース           | A4  |               |       | "            | 長3  |
| "                 | B5  | "                | B5  | 集計用紙<br>(コクヨ) | シヨ-15 | "            | 長4  |
| "                 | A4  | "                | B4  | "             | シヨ-30 | "            | 窓あき |
| "                 | B4  |                  |     |               |       |              |     |
| "(コクヨ)            | B5  | ホッチキス針           | №10 | 定 規           | 20cm  |              |     |
| "                 | A4  | "                | №3  | "             | 30cm  |              |     |
|                   |     | "                | №1  |               |       |              |     |

表-4 【事務用品携帯基準表 ……個人用】

| 種 類           | 数 量 | 単 価     |
|---------------|-----|---------|
| 鉛 筆           | 2 本 | 12 円    |
| " (赤)         | 1 本 | 25 円    |
| ボ ー ル ペ ン (黒) | 2 本 | 21 円    |
| 消 し ゴ ム       | 1 コ | 10 円    |
| 定 規           | 1 本 | 50 円    |
| ソ ロ バ ン       | 1 紙 | 900 円   |
| 合 計           |     | 1,018 円 |

表-3 (B5)

| 事務用消耗品 表1         |     | 月 分 部 課 |   |     |     |
|-------------------|-----|---------|---|-----|-----|
| 品 名               | 入 数 | 単 価     | 箱 | バ ラ | 金 額 |
| (ア行)              | 枚   | 円       |   |     |     |
| 販 目 紙<br>(美濃表紙)   | 100 | 17      |   |     |     |
| インデックス 赤<br>(見出紙) | 30  | 40      |   |     |     |
| " 青               | 30  | 40      |   |     |     |
| 鉛 筆 HB            | 12  | 23      |   |     |     |
| 色 鉛 筆 赤           | 12  | 40      |   |     |     |
| " 青               | 12  | 40      |   |     |     |
| " 赤青              | 12  | 40      |   |     |     |
| (カ行)              |     |         |   |     |     |
| カ-ドケース B4         | 12  | 250     |   |     |     |
| " A4              | 12  | 150     |   |     |     |
| " B5              | 12  | 125     |   |     |     |
| " A5              | 12  | 90      |   |     |     |
| ガムテープ(布)          | 30  | 380     |   |     |     |
| " (紙)             | 50  | 250     |   |     |     |
| 海 綿 (ゴム製)         | 1   | 80      |   |     |     |
| " 壺               | 1   | 100     |   |     |     |
| 外 交 用 靴           | 1   | 3,200   |   |     |     |
| カ-ボン紙(両面)         | 100 | 20      |   |     |     |
| " (片面)            | 100 | 19      |   |     |     |

表-5 【事務用品携帯基準表 ……グループ用】

| 種 類                 | 数 量   | 単 価     |
|---------------------|-------|---------|
| パ ン チ               | 係に 1コ | 650 円   |
| セ ロ テ ー プ           | " 1巻  | 95 円    |
| マ ジ ッ ク イ ン キ (黒・赤) | " 1本  | 40 円    |
| ハ サ ミ               | 4人に1紙 | 250 円   |
| ホ チ キ ス (小)         | "     | 110 円   |
| ゼ ム ク リ ッ プ         | " 1箱  | 150 円   |
| の り                 | " 1コ  | 30 円    |
| カ ー ボ ン 紙           | 係に 1箱 | 特殊ケース有り |
| ス タ ンプ 台 (黒・赤)      | 4人に1面 | 180 円   |